

# 京滋の学長

## トップインタビュー



—大津市に立地する短期大としてどう特徴を打ち出しているか。

本学の約8割の学生は滋賀県内の高校出身で、ほぼ同じ割合が県内で就職している。京阪神にある「都市型」ではなく、地元と密着した「地域型」としての短大の姿勢を鮮明にすることを目指している。

—地域連携の具体的な取り組みは。

2012年に設置した「地域連携教育研究センター」を拠点に、短大として組織的な活動に取り組んでいる。教員が地域の図書館などと協力して健康づくりや子育てなどをテーマとした講座を開催したり、学生が企業や自治体とともに商品開発を行ったりするなど、短大の側から地域に向くことに力を入れている。活動成果をまとめた年報

## 滋賀短期大学 佐藤尚武学長 地元密着の「地域型」の姿勢鮮明に

を発行しているが、今後はインターネットなどさまざまな媒体を用いて高校生や保護者向けに短大の「見える化」をより進めたい。

—大学運営において教育だけでなく研究も重要な柱に掲げている。

高等教育機関としての軸はあくまで研究にある。各学科の専門性を結集した全学的な研究プロジェクトとして、幼児教育の教材やプログラムの開発を行っている。地域と連携した研究活動に対しては、学長裁量経費で特別に支援している。研究活動を後押しすることで、短大の活性化とブランド力の向上につなげたい。

—時代に合わせた学科の再編も必要になる。

現在は生活、幼児教育保育、ビジネスコミュニケーションの3学科制であるが、生活学科は食健康や製菓など特に「食」に特化したコースに再編する。ビジネスコミュニケーションシオン学科には、新たに観光やホテル、ブライダル分野で活躍する人材を育成するコースの新設も検討している。

(聞き手・松尾浩道)